

「地域農業の活性化に貢献したい！」

本宮 秀亮 (39 歳)
(松前町)

Uターン



1 就農の動機・理由

子どもの頃から祖父の農業を手伝っていた。祖父の引退後は父が農業をしていたが、父の死去を受け、自分が農業を継ぐ決意をした。2年間は会社員との兼業であったが、農作業が忙しくなり、また農業一本でやっていける手応えを感じたため、専業農家になると決めた。現在は水稲、裸麦、ねぎ、さといもを生産しており、令和6年7月に「株ぐうふあーむ」として法人化し、地域農業の活性化に貢献できるような生産者を目指している。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和6年)	将来の経営 (令和9年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人) 補助2人 (妻、パート)	男1人(本人) 補助3人 (妻、パート)
経営耕地	水田 86a	水田 400a	水田 500a
経営内容	水稲 57a 麦 40a キャベツ 10a ブロッコリー 6a その他野菜 11a	水稲 180a 麦 60a さといも 80a ねぎ 70a	水稲 200a 麦 200a さといも 100a ねぎ 100a

○農業用施設

農業用倉庫

1棟

○主要農業機械

トラクター	18, 25ps	2台
ブームスプレーヤ		1台
管理機		2台
動力噴霧器		1台
軽トラック		2台
サトイモ定植機		1台
ネギ収穫機		1台
米乾燥機		2台
籾摺り機		1台
田植機		1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 松山市

職歴 会社勤務

就農研修歴 なし

就農年月 令和2年2月

(2) 就農時の思い

父の代は栽培品目が水稲だけだったが、他にも生産を拡大したいと思い、野菜栽培を始めた。どの品目が自分に合っているのか見極めようと、初めは色々とチャレンジしていた。家族と過ごす時間を大切にしたいと思っていたので、収穫期間が分散できるさといもは魅力的な品目だった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

先輩農家からアドバイスをもらったり、JA指導員や県普及指導員に相談したり、ネットやSNS等でも情報収集し

て、試行錯誤しながら技術を身に付けた。

(2) 資金の準備

就農開始にあたり、さといもやねぎの野菜栽培には機械が必要だった。愛媛県担い手総合支援事業を活用し、乗用管理機や収穫機、皮剥き機を整備した。また、公庫資金を借入れ、田植機や米乾燥機を更新した。

(3) 農地・住宅の確保

周辺は現役の農家が多く、農地の確保や規模拡大には今も苦労している。地元の農家や農業委員会へ相談して、農地の確保に努めている。

(4) その他苦労したこと

父が早く亡くなり、農作業の何をするのか、効果的な農薬の使用方法等、細かいノウハウが十分に継承できていなかったこと。また父の所有していた農機具が古くなっていたため、就農初期に機械施設等の更新のための投資が必要だった。

5 農業経営の特徴

米麦の二毛作とさといもの組み合わせで水田フル活用の農業経営をしている。また、企業との取引を増やすことを見据えて、令和6年7月に法人化して「(株)ぐうふあーむ」を設立した。農福連携にも取り組み、福祉事業所の方にさといもの収穫に協力いただいている。

6 これからの夢

ねぎを周年供給できる体制にしたいと考えている。また、ライスセンターを整備して水稻生産の受皿となり、地域の水田農業の活性化に貢献していきたい。

7 成功したキーポイント

行政や JA と上手くコミュニケーションをとって、情報提供やサポートをしてもらった。また松前町青年農業者協議会に加入したことで、横のつながりが増え、先輩農家からアドバイスをもらいやすくなった。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は情報収集が大事だと思っています。地域の人や関係機関としっかりコミュニケーションをとって、栽培技術や支援策等の知識を増やすといいと思います。

○ 指導機関からのひとこと

本宮さんは熱意に溢れ、ご自身の経営だけでなく、地域農業の発展まで考えておられます。今後、松前町の核となる担い手として、ますますの活躍を期待しています！

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室

伊予農業指導班

電話番号 089-982-0477



ねぎの収穫作業